

〔曲名〕 幌馬車

〔曲種〕

〔作曲者〕 橋本国彦

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

原曲はフルート又はヴァイオリン助奏付の歌曲。

1931年（昭和6年）に作曲され1934年6月東京共益商社で出版された。

作詞は西条八十見

おくれば 君が幌馬車

はろばろと 小さくなりゆく。

はろばろと 並木の路を

粉雪降る 夕にとおく。

ひとときの 後なり いまも空幽か

君が馬車 見ゆ。

あわれそは 恋のまぼろし

月の上をくくろくゆく鳥。

冒頭セレナーデ風にとある通り終始同一形のアルペジオの伴奏に支えられた旋律が美しい。

いるぷれっとろ第14号の「懐旧の三河路」にも書いたように筆者にとっても田舎路の馬車は懐しい。

表紙絵はそんなつもりで描いたが、私の場合は幌馬車でなく箱馬車である。

本曲とは関係ないが私にも1945年7月に作った中条雄二作詩の箱馬車の歌曲がある。

ついでに歌詞を紹介しておく。

陽はあたたかく 亜麻色の
麦の穂波に晴れ渡り
風のさわやかに マロニエの
青い梢を 吹いてくる。

急げ 箱馬車 あの村越せば
町の藪が もう見える。

はづめ若駒 たてがみたてて
馳けりゃちんから 鈴が鳴る

吹けよ口笛 轍も軽く

丘の乳屋は もう近い。

風さわやかに マロニエの
青い梢を 吹きわたり

陽はあたたかく 亜麻色の
麦の穂波に 照り映える。

イタリアマンドリン百曲選別冊 日本の郷愁（1）より

1972年2月1日発行